

# キャッシュレス化の推進

## 目標は 10 年後に比率 2 割から 4 割へ

政府の発表した「日本再興戦略 2016」には 2020 年のオリンピック・パラリンピック東京大会開催等を視野に入れたキャッシュレス化の推進が示されている。さらに、「未来投資戦略 2017」には KPI（重要な評価指標）として 10 年後（2027 年）までにキャッシュレス化率を 4 割程度とすることを目指すとされている。

また、東京オリンピック・パラリンピックまでに、訪日客が多く利用する宿泊施設、観光スポット、商業施設の 100%キャッシュレス化対応も目標としている。

このようなオリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド対応以外に政府がキャッシュレス化を促進する

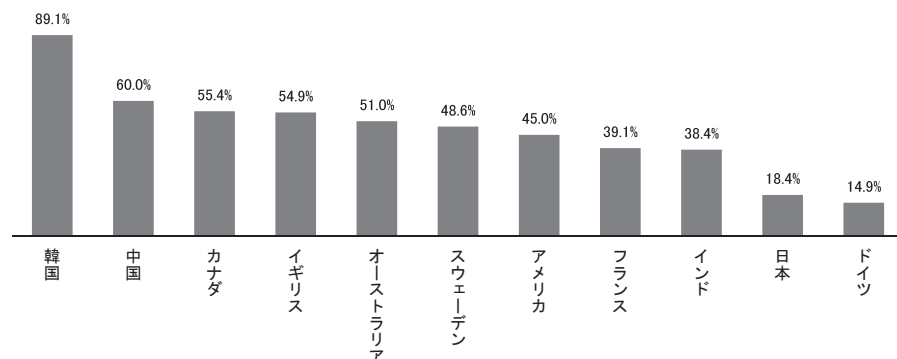
背景として、

- ・ 少子高齢化や人口減少に伴う労働者人口減少の時代に必要な省力化
- ・ 不透明な現金資産の見える化（流動性向上と、不透明な現金流通の抑止による税収向上）

・ データの利活用による消費の利便性向上や消費の活性化を挙げている。

日本における最初のクレジットカードは、1960 年に導入された丸井カードである。それ以降、約 60 年が経つが、クレジットカードの決済比率は 16%前後で大きく伸びてはいない。また、クレジットカード以外を含んでも 20%弱と、日本におけるキャッシュレス化率は低位になっている。

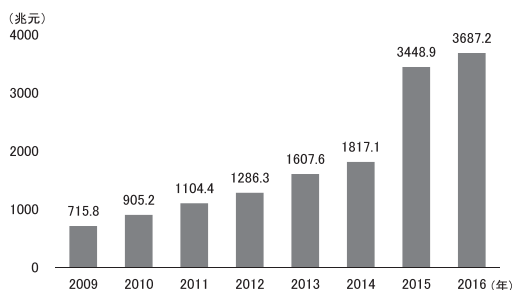
■図表 1 世界のキャッシュレス化率（2015）



出典：経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」

一方、中国では2010年に40%であったキャッシュレス化率が2015年には60%にまで高まり、さらに拡大を続けているという。

■図表2 中国におけるキャッシュレス決済額の推移



出典：富士通総研

中国におけるキャッシュレス決済は金額としては「クレジットカード」が多くなっているが、取引数では、「銀行を経由しないモバイル決済」が、クレ

ジットカードに迫る勢いで増えている。

そこで、本稿においては、キャッシュレス化の現状と、それらに対する消費者の意識について、アンケート調査をもとに考察をし、先端的な日本におけるキャッシュレス化の取り組み事例について紹介する。

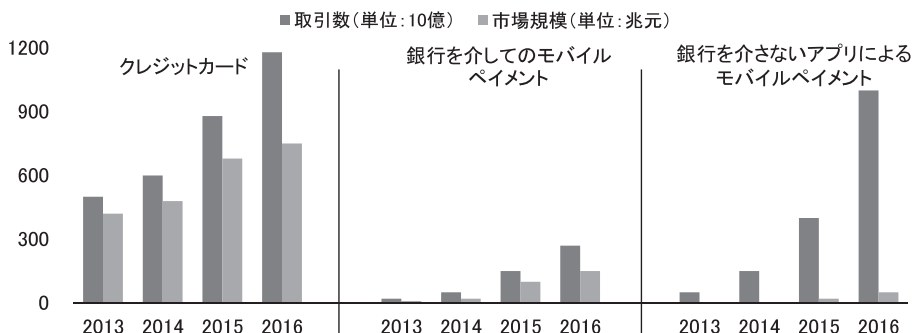
また、キャッシュレス化が急速に進んでいる中国における実情について、弊社中国マーケティングパートナーによるレポートをお届けする。

執筆担当

細田 克浩、坂本 結

パートナー Hwang, Kerh-Wei

■図表3 中国のキャッシュレスサービス別取引推移



出典：テンセントリサーチ「2017 Mobile Payment Usage in China」